

新教育実践の先駆者F・フレーベル

莊 司 雅 子

F・フレーベルの生誕二百年記念を来年一九八二年に迎へ、世界最初の幼稚園の発祥地であるブランケンブルク*では、目下フレーベル博物館の改築中であり、フレーベルが初めて学生生活をしたエナ大学では二百年記念祭の諸行事の準備に追われているようである。ブランケンブルクは一八三七年にフレーベルがここを根城にして乳幼児のための教育遊具を考案し製作し、そして乳幼児教育を実践し、世界最初のキンダーガルテンを創設したところである。このように純粋に教育的な意図をもって系統的に遊具を考案し、製作したのは、フレーベルが世界で最初の人であるといつてよい。またこの遊具をもって子どもを誕生と同時に四肢五官の訓練と精神の発達をはかるうとしたいわゆる真の意味の早教育をしたのも世界ではフレーベルが最初であるといつてよい。更にこのような早教育を指導する専門の幼児保育者や幼児教育者の養成をしたのも世界ではフレーベルが初めてである。

幼児期の教育は言葉や文字や数字などのような抽象的なものによるのではなくて、あくまでも子どもの発達段階に応じた、具体的な事物や実物を直接に子に聴かせる、見せる、触れさせる、つまり幼児自身が直接に身体全体で体験することによって、はじめて効果があがるものであることを、自らの教育実践を通して強調した世界最初の教育学者はまさにわがF・フレーベルであった。フレーベルの幼児教育の目ざすところは、あくまでも幼児のもっている本来の活動衝動や創造衝動を健全に保育し、それがやがて子どもが成長した後文化を創造する人間になり、それによって地上における人間のもっている天職を果せるところにある。そしてその教育方法は、あくまでも児童中心主義であり、子どもの創造的自己活動・生命の連続発展・個性・社会性・体験・興味などの諸原理にもとづいている。そしてこれらの諸原理はその後の新教育運動の源泉になっていることは人びとの知るところで

ある。

さてフレールベルが幼児教育を実践しようとしたのは一八三六年彼が五四歳の時であり、翌年ブランケンブルクで教育遊具を製作して幼児教育を実践した。それまではカイルハウというところに学園を開いて初等教育を実践していた。この学園での教育から、フレールベルは当時行われている教師中心・教科書中心・大人中心の教育、読み・書き・算数を機械的に学習させるような生命のない教育に対して思い切った革新的な教育を実践したのである。もちろんそのため、フレールベルは旧教徒や保守派の教育者たちから多くの迫害を受け、カイルハウ学園はひどい苦難に陥ったことは記録に明らかである。ところがフレールベルは周囲の迫害に抵抗しつつ、あくまでも自己の信ずる真の教育原理を実践しつづけ、しかもその後それを幼児教育の発達段階に即して実践したのである。

新教育運動は周知の通り、アメリカに発足したのであるが、この運動を展開した人は、いうまでもなく、アメリカの偉大な哲学者であり教育学者であるJ・デューイである。デューイの設立したシカゴの実験学校は、まさにフレールベルの精神

の応用ないし具体化であるが、デューイ自身この間の消息をその著『学校と社会』(School and society 1899)の第五章「フレールベルの教育原理」の中にはつぎの通りに述べている。「この小学校はその全課程——現在四歳から一三歳までの児童が在学しているが——を通じてフレールベルがおそらく初めて意識的に提唱したあの一連の原理を実行しようと努力していることを暗示するものである。これは明らかにフレールベルの教育原理を幼稚園以上の教育段階にも適用しようとしたフレールベル運動に外ならない。」アメリカにおける新教育運動は、このようにデューイの設立したシカゴの実験学校に始まり、次第に発展してチャイルドセンタースクール、プロジェクトメソッド、ドルルトンプラン、ヴィネットカシステム、ワークブックプランとなり、さらにキルパトリックを中心とするコミュニティスクールの運動ともなった。これらの新教育運動の諸原理は前に述べたように、すでにフレールベルがカイルハウ学園で、そしてブランケンブルクのキンダールガルテンで実践していた。フレールベルこそ新教育実践の先駆者であるといえる。

* 現在は Bad Brankenburg と呼んでいる。